



「こんなふうに見えています」

生徒編

京都府立盲学校 自立活動推進部
京都府視覚支援センター





まえがき

—弱視の見え方を理解するために・説明するために—

弱視者は生まれてから一度もはっきりとものを見た経験がないことから、自分の見え方を説明することとは不可能に近いと言われています。

弱視生徒が、「見える？」と聞かれた時に、「はい」と答えてしまうのも無理のない話です。本人なりに「見えている」のですから。

多くの弱視生徒は生活に必要なある程度の視力を持っています。

ところが、無理なく学習するのに必要な視力は不十分な場合がほとんどです。画数の多い漢字や点、画、はねの有無、実験での温度計やフラスコを目盛りなどは、見えていないケースが多いと思います。そこで、「こんなふうに見えています」生徒編を参考にさせていただければと思います。

弱視のあなたへ

この冊子の作者も弱視です。私も望んで弱視になったわけではありませんし、自分の眼のことを考えたくない、人に話したくないという気持ちはよく分かります。でも、自分がどのように見えていて、どのような配慮が必要なのかをまとめておくことは大事なことだと思います。

弱視生徒を担当される先生方へ

この冊子は、弱視生徒と接する上で、知っておいていただきたい項目についてまとめたものです。

弱視教育はちょっとした工夫、配慮でできることが多く、ほんの少しのことで生徒の力が発揮できたりするものです。

各節の最後に【ひとこと】がありますが、これはこの冊子の作者(弱視者)のこれまでの経験などからのコメントです。参考にさせていただければ幸いです。



記入日 _____

名前 _____

I 眼の病気、視機能にかかわること

1 私の眼の病気(眼疾)は、

ア () です。

イ 原因不明です。

2 身体障害者手帳は、

ア () 種 () 級で、障害名は () です。

イ 持っていません。

3 私の裸眼視力(めがねやコンタクトを使用しないとき)は、

右 () 左 () です。

ア 矯正視力(めがねやコンタクトを使用したとき)は、

右 () 左 () です。

イ 矯正できません。

4 ものの色の区別は、

ア 普通にできます。

イ だいたいですが、よく似た色はできません。

特にわかりにくい色は () です。

ウ ほとんどできません。

5 真夏のお昼などの非常に明るいところは、(羞明(しゅうめい)について)

- ア 何ともありません。
- イ 目の痛みはありませんが、見えにくくなります。
- ウ まぶしくて目が痛み、見えにくくなります。
- エ 見やすくなります。

6 街灯のない夜道などの暗いところは、(夜盲について)

- ア 何ともありません。
- イ 少し見えにくく、苦手です。
- ウ ほとんど見えません。
- エ 見やすくなります。

7 明るさが急に変わったとき

(1) 明るい所から暗い所に行ったとき、(暗順応について)

- ア 何ともありません。
- イ 普通の人よりは慣れるまでの時間がかかりますが、見えるようになります。
- ウ 時間がたつと少しは見えるようになりますが、ほとんど見えません。

(2) 暗い所から明るい所へ行ったとき、(明順応について)

- ア 何ともありません。
- イ 普通の人よりは慣れるまでの時間がかかりますが、見えるようになります。
- ウ 時間がたつと少しは見えるようになりますが、ほとんど見えません。

8 真正面を見たときに見えにくいところがありますか(視野欠損について)

(1) 左眼は、

- ア 視野は欠けていないと思います。
- イ 視野の中心部が見えませんが、周辺部は見えます。
- ウ 視野の中心部は見えますが、周辺部は見えません。
- エ 視野の中に不規則に見えにくいところがあります。
- オ 視野の右半分が見えません。
- カ 視野の左半分が見えません。
- キ 視野の上半分が見えません。
- ク 視野の下半分が見えません。
- ケ 全く見えません。
- コ よくわかりません。

(2) 右眼は、

- ア 視野は欠けていないと思います。
- イ 視野の中心部が見えませんが、周辺部は見えます。
- ウ 視野の中心部は見えますが、周辺部は見えません。
- エ 視野の中に不規則に見えにくいところがあります。
- オ 視野の右半分が見えません。
- カ 視野の左半分が見えません。
- キ 視野の上半分が見えません。
- ク 視野の下半分が見えません。
- ケ 全く見えません。
- コ よくわかりません。

9 医師から言われている生活上の注意点は、

- ア 眼や頭をぶつけると危険(衝撃を与えない)
- イ 食事制限
- ウ 運動制限
- エ うつむき姿勢を続けない(眼圧を上げない)
- オ その他 ()
- カ 特にありません。

10 医師から言われている眼疾治療上の指示は、

- ア 飲み薬
- イ 点眼薬
- ウ 遮光眼鏡(サングラスなど)を常用する
- エ 義眼使用
- オ その他 ()
- カ 特にありません。

11 眼疾患の病状は、

- ア 進行しています。
- イ 安定しており、今後もこの状態が続くと医師から言われています。
- ウ 安定していますが、将来進行のおそれがあると医師から言われています。
- エ 回復しつつあります。

【ひとこと】

〈見え方の理解〉

学校の保健室で5mの距離から測る視力を遠距離視力といいます。これは少し離れた物を見るときに、どのくらい見えているかを推測する指標となります。

字を読むときは自分の一番見やすい距離（顔を紙にくっつきそうなぐらいに近づけて見るときが最も見えやすい場合もあります）で見ます。その時の視距離や文字の大きさをすることも支援の手がかりになります。

〈視野に課題がある場合の例〉

視野の中心部分が見えにくい場合や、見えにくい部分が不規則にある場合には、見たい物から視線をそらすように顔を横に向けるような様子が見られたり、人と話をするときに視線が合わなかったり、物をしっかり見ようとするときに首を傾けたりする場合があります。

上半分の視野が見えにくい場合には、教材の提示は視線より下にするなどその子の見えやすい範囲を配慮した支援が必要になります。

Ⅱ 文字の読み書きにかかわること

12 使用文字は、

- ア 墨字(すみじ、晴眼者の使う普通文字)です。
- イ 点字です。
- ウ 墨字・点字の両方です。
- エ 墨字も点字も使えません。

13 普段使っている視覚補助具は、

- ア 普通のめがねまたはコンタクトレンズ
- イ ルーペ(拡大鏡、虫めがね)
- ウ 単眼鏡(双眼鏡ではなく、1本の望遠鏡の手のひらサイズの小さいもの)
- エ 弱視眼鏡(ルーペを眼鏡に組み込んだもの)
- カ 遮光眼鏡(サングラスなど)
- キ 拡大読書器(手元の文字を拡大してモニターに映し出すもの)
- ク パソコン(画面拡大機能や音声読み上げ機能を用いて)
- ケ iPad 等のタブレット端末
- コ その他

14 白黒反転表示の方が、

- ア **読みやすいです**
- イ **変わりません**
- ウ **読みにくいです**

15 縦書きと横書きでは、

- ア 縦書きが読みやすいです。
- イ 横書きが読みやすいです。
- ウ 変わりません。

16 ルーペなしで読めるもっとも小さな文字について、**添付資料1** を使って確かめてください。

17 試験問題や配付されるプリントなどは、

- ア 教科書体 イ 明朝体 ウ ゴシック体 で、
()ポイント位で作成していただけると読みやすいと思います。

18 ノートや試験の答案用紙に文字を書くときは、

- ア 普通の鉛筆で大丈夫です。
- イ 太めの濃い鉛筆を使います。
- ウ 太字のサインペンを使います。
- エ 太いマジックを使います。
- オ 墨字は書けません。
- キ その他

19 ノートは、

- ア 普通のものを使います。
- イ 普通のものに1行おきに太い線を書いて使います。
- ウ 行の間が広くて太い横線のみのもので使います。
- エ 太い線で大きい目(5mm、10mm)の方眼用紙を使います。
- オ その他

20 試験の答案用紙は、

- ア 他生徒と同じものでよいです。(配慮の必要はありません)
- イ 他生徒と同じものを拡大コピーしてください。
- ウ 大きめ(B4, A3)の罫紙がよいです。
- エ 行間が広くて太い横線のみのものがよいです。

【ひとこと】

〈見え方の理解〉

クラスメートの中で自分だけが、単眼鏡や遮光眼鏡(サングラスなど)を使用するのは勇気のいることです。友達やクラスの仲間みなさんに、これを使うと見えやすくなるということを説明し、必要な視覚補助具であることが理解されるようにすることが大切です。

〈眩しさへの配慮〉

羞明(しゅうめい)のある弱視児は、まぶしいのが苦手です。白い部分は反射する光をとんでも強く感じて見えにくくなるからです。このような場合は、白地に黒の文字ではなく、黒地に白の文字の方が見やすくなることがあります。(このようなノートも市販されています。)

【ひとこと】

〈文字への配慮〉

「16」の例示の文字から読みやすい文字のポイントをある程度推測することができます。

また、多くの盲学校などには、MNREAD-Jという読書をするのに最適な文字の大きさを評価することができる読書チャートがあります。教育相談などの機会等に測定して、拡大教科書の文字ポイントを選択する資料にできます。

拡大コピーは文字だけでなく文字間、行間までもが大きく(広く)なってしまいますので、読みにくくなることがあります。特に視野の中心しか見えていない生徒にとっては、拡大すると一度に読める文字数が減ってしまい、読むことに疲れるので、拡大コピーの教材や資料は適していません。

配布する文書全てを読みやすい文字にすることは難しいので、ルーペを用いた読みの練習等も必要になってきます。

〈姿勢保持への配慮〉

書いている文字をよく見ようとして、ペン先を見るために姿勢が前屈みになってしまいます。この姿勢は、首や肩への負担が大きくなり早く疲れてしまいます。安定した姿勢の学習を保障するために斜面机(製図用机や美術用のデッサン机など)という天板の角度を自由に変えられる机があり、姿勢の改善に有効です。机上に置く書見台も有効です。

〈教科学習での配慮〉

社会科の学習で、地図を読むことが苦手な弱視児が多いと言われています。通常、地図には多くの情報が記載されているので、必要な情報を見つけることが難しいのです。川の学習をするときには川だけが記載されている地図、鉄道の学習をするときは鉄道だけが記載されている地図を用意することで、弱視児は学びやすくなります。また地図に使われている色の違いがわかりにくい場合には、領域と領域の境目に境界線を引くだけでかなり見えやすくなります。

Ⅲ 学校生活(校内)にかかわること

21 特別教室やトイレなどへの移動は、

- ア 常に手引きをしてほしいです。(私があなたの肘か肩を持ちます。)
- イ 困っているようであれば、声をかけてください。
- ウ 手引きをしてほしい時は、私からお願いします。
- エ 基本的に手引きの必要はありません。

22 窓から教室に差し込む日光は、

- ア 気になりません。
- イ 私の机に日光が当たるようであれば、カーテンを閉めてください。
- ウ 黒板に日光が当たるようであれば、カーテンを閉めてください。
- エ 外が明るいときには、常にカーテンを閉めてください。

23 教室内での座席の位置は、状況にもよりますが、前後でいうと、

- ア 前
 - イ 真ん中
 - ウ 後
- が、見やすいです。

24 黒板にチョークで書いた文字や図は、「23」の座席であれば、

- ア 普通に見えます。
- イ 少し大きめに書いてもらえると見えます。
- ウ 単眼鏡を使えば見えます。
- エ はっきりとは見えませんが、書く手の動きでだいたい想像できます。
- オ どうしても見えません。

25 私は、先生や友達の姿を見て、それがその人であることが

- ア ()mくらい近づけばわかります。
- イ 眼では、確認できません。

26 掲示板、案内表示、立て札などは、状況にもよりますが、

- ア ほとんどの場合、自分で読めます。
- イ コントラストなどの条件がよければ読めます。
- ウ ほとんどの場合、読めません。

27 消しゴムや小銭などの小物を落としたときには、

- ア ほとんどの場合、自分で見つけられます。
- イ 落としたことはわかりますが、自分ではなかなか見つけられません。
- ウ ほとんどの場合、見つけられません。

28 給食の配膳などは、

- ア 自分でとれます。
- イ 慣れるまではそばで助言してほしいです。
- ウ 当面はとってください。

29 パソコンを用いての授業では、

- ア 顔を近づければなんとか見えます。
- イ パソコンのユーザー補助機能で拡大してください。
- ウ 画面拡大ソフトで拡大してください。
- エ 音声装置をつけてください。

30 次の球技の中で、体育の授業や学級活動でやるとしたら、
一緒にできるのは、

ポジションや役割などによっては一緒にできるのは、()
参加はできませんが、見て楽しめるのは、()
よく見えませんが、とによりで解説してほしいのは、()

- ア 卓球
- イ ソフトボール
- ウ バレーボール
- エ サッカー
- オ ハンドボール
- カ バスケットボール

【ひとこと】

〈移動の支援〉

視覚障害者を誘導することを一般に「手引き」と言います。手引きは、実際に視覚障害者の手を引くわけではなく、視覚障害者が誘導者の肘を持ち、横に並んで歩く、あるいは斜め後ろを歩く、道幅が狭いところなどでは後ろを歩きます。

校内での移動については、最初に校内の位置関係など時間をかけて指導を行い、それが正しく頭にイメージできるようにすることが望ましいです。位置関係が正しく把握できることで、自分一人で移動できるようになります。

はっきりと見えていない状態なので、ロッカーや、机、花びん、ゴミ箱、消火器などの位置を動かしたときは、必ずそのことを事前に本人に伝えて、環境の変化が理解できるようにする配慮が必要です。

〈座席の位置の配慮〉

視力や視野欠損の状況により、教室の真ん中の前の席が常に見やすいとは限りません。実際に座って、黒板に書かれた文字などが見やすい位置を本人と確かめることが大切です。

〈板書の配慮〉

黒板のチョークの色は、白、黄色が見えやすく、赤、青、茶色が見えにくい弱視児が多いようです。ホワイトボードでは、黒、青、赤が見えやすいようです。実際に書いたものを読ませて確かめてください。また、黒板はきれいに消すことで書かれた文字がはっきりして見えやすくなります。

板書する時は、書く内容を言ってから板書したり、板書した内容を復唱したりすることで、分かりやすくなります。

〈人の顔の判別の難しさ〉

人から会釈されたり、友達が少し離れたところから手を振ったりしても、はっきり見えず気がつかないことがあります。名前を呼んで話しかける配慮が大切です。

〈掲示物の配慮〉

掲示物は、眼の高さにあると読みやすいです。ガラスの扉のついた奥行きのある掲示板や陳列棚では、視距離を調整しにくいことがあるので、読み上げ支援が有効な時があります。

〈指示の言葉の配慮〉

少し離れた物や場所を指し示すときなどには、「これ、そこ、あれ」等の指示語ではなく、「あなたの左足の30センチ前」「理科室の向かい」「1番前の窓の下」などと基準となる物からの方向、距離などを明確に伝えることが分かりやすいです。

【ひとこと】

〈動作の獲得の配慮〉

例えば、給食時に「汁物をお椀に注ぐ」動作は、晴眼児であれば他人がしているのを見て、その模倣でできるようになります。「模倣」が不得意な弱視児は、はじめに基本的な操作手順を丁寧に指導すると共に、意図的に場面を設定して練習する時間を確保することが大切です。

〈運動への配慮〉

眼に衝撃を与えないようにという指示を受けている弱視児も多くいます。接触プレーのある競技などでは、部分的にでも特別ルールを考えて参加するなどの配慮が必要になると思います。

また、体育や運動会でトラックを走るときは、最もインコースの内側の白線が見えやすい弱視児も多く、実際にどのコースが走りやすいか確認することが大切です。ゴールインするときに胸の高さあたりに張られたテープは見えにくいので注意が必要です。

おもいきり走る、おもいきり投げる、おもいきり飛ぶという経験が不足しがちです。ルールを工夫するなどして、安全面での環境を整備して、身体を動かして運動する楽しさを味わえるように配慮することが望ましいです。

〈パソコンの視覚支援機能〉

パソコン自体が持っている拡大機能、コントラスト設定機能や画面拡大用のソフトが役立つことが多いものです。また、ホームページやメールを読み上げるソフトなどもあります。

IV 登下校、社会見学、修学旅行など校外での生活にかかわること

31 歩くときに白杖(はくじょう=白い杖)は、

- ア 常に使っています。
- イ 見づらい時や人混みの中など必要に応じて使っています。
- ウ 持っていますが使っていません。
- エ 持っていません。

32 階段や段差は、

- ア ほとんどの場合、わかります。
- イ コントラストの悪いときなどは、わかりにくいです。
- ウ ほとんどわかりません。

33 歩いていてぶつかったり、見づらかったりして怖いものは、

- ア 通行人、子ども
- イ 放置自転車
- ウ 無灯火の自転車
- エ 駐車自動車
- オ 車止めのくいやくさり
- カ 路上の看板
- キ ガラス製の扉やしきり壁
- ク 頭の高さにせり出した看板やテントの支え棒や植木の枝
- ケ 歩道にせり出した商品棚、プランター
- コ 歩道の街路樹、バス停
- サ 歩道の低い植木、花壇、ゴミ箱
- シ 踏切
- ス 道路標識柱
- セ 電信柱、電信柱を支えているワイヤー
- ソ 雨の日の傘
- タ その他

34 屋外を一緒に歩くときには、

- ア 33のようなところでは、少し前に教えてください。手引きの必要はありません。
- イ 初めて行くところや暗くて見えにくい時、混雑している時などには、手引きをお願いしたいと思います。
- ウ 常に手引きをお願いします。

35 交差点での信号は、(単眼鏡を使用する場合もある)

- ア 道幅の広い交差点でも見えます。
- イ 道幅の狭い交差点ならば見えます。
- ウ 見えません。

36 乗り物の時刻表・運賃表等の掲示物は、(単眼鏡を使用する場合もある)

- ア 顔の高さにあれば見えます。
- イ 少し高いところでも見えます。
- ウ 見えません。

37 初めていく場所を探す時、

(1) コンビニ、デパートなど(建造物)の場合

- ア だいたい場所を聞けば、自分の眼で探せます。
- イ 「京都の四条河原町の交差点から東へ約50メートルの北側」のように、「東西南北」、「左右」、「歩いて5分」などと、基準となる物からの方向、距離、時間などで教えてください。
- ウ 自分では探せないなので、手引きしてください。

(2) トイレ、ATM、切符売り場など(敷地内にある場所)の場合

- ア だいたい場所を聞けば、自分の眼で探せます。
- イ 「正面入り口からまっすぐに30メートルぐらいの右側」などと、基準となる物からの方向、距離で教えてください。
- ウ 自分では探せないなので、手引きしてください。

38 トイレの男性用、女性用は、

- ア 表示を見てわかります。
- イ 人の出入りで判断しています。
- ウ 教えてください。

39 次のものは、眼で観賞、観察、見学できます。(視覚補助具を用いる場合もある)

- ア 写真、絵画
- イ 水槽の中を泳ぐ魚類
- ウ 空を飛ぶスズメやハトなどの鳥
- エ 檻の中の動物
- オ 花火
- カ 天体(星空)
- キ 月(満月、三日月、半月)
- ク プラネタリウム
- ケ 球場、競技場での野球やサッカーなどの観戦
- コ 車窓や景色
- サ 演劇
- シ その他

40 次の画像等は、眼で楽しむことができます。

- ア テレビ
- イ 映画館での映画(日本語の)
- ウ 映画館での映画の字幕スーパー
- エ 立体映画
- オ ゲーム(テレビ画面で)
- カ ゲーム(手元の液晶で)
- キ 単行本になったマンガ
- ク マンガ雑誌
- ケ iPad 等のタブレット端末
- コ iPhone 等のスマートフォン

41 次の機器等は、眼で見ても使用(操作)できます。

- ア アナログの腕時計
- イ デジタルの腕時計
- ウ 携帯電話
- エ 電子レンジ、炊飯器、洗濯機などの液晶画面
- オ カメラ
- カ ビデオカメラ

42 トランプ、カルタなどは、

- ア ふつうのものでできます。
- イ 弱視者用の少し大きめのものを使います。
- ウ 盲人用を使います。

【ひとこと】

〈移動の支援の重要性〉

弱視者にとって一番怖いのは上下方向の移動です。階段歩行では、水平部分と垂直部分の色がよく似ていたり、水平部分と廊下の色がよく似ていたりすると、段の位置が分からず、とても怖くて足を擦らせるように踏み出してしまいます。

望ましい環境整備としては、階段の前後には点字ブロックを設置し、階段の角（滑り止めなどを張る部分）にコントラストがはっきりするように、違う色を塗る等の支援があると移動しやすくなります。

一般に階段の上りよりも下りの方が見えにくくて怖いと言われます。廊下歩行では、廊下の中央に廊下とちがう色で線が引かれると、歩きやすくなることがあります。

基本的なことですが、点字ブロックは、全盲の人のためにあるように思われがちですが、弱視児も頼りにすることが多いです。特に駅のプラットフォームの点字ブロックは弱視児の命を守るためにも非常に役立つものです。

〈観察や鑑賞での配慮〉

生活科や理科の観察では、植物などの動かないものは近づけばルーペなどを用いて観ることができます。しかし、昆虫や動物など動くものは、見えにくいことが多いものです。晴眼児なら誰でも知っているバッタやカマキリを知らなかったりもします。一番よいのは、実物を取ってきて見せてあげることですが、大きい動物はそういうわけにはいきません。その場合は、模型や剥製などがあると学びが深まります。盲学校などには剥製がありますので、触りに行ってみたいはいかがでしょうか。

43 その他、本生徒の見え方で気づいたことがありましたら、書いてください。

【ひとこと】

「百聞は一見に如かず」「一目瞭然」という言葉がありますが、弱視者の「一见」や「一目」にはあまり多くの情報が入ってきません。

ですから、周りの皆さんの説明が、イメージや想像のための大切な情報源です。「一见に勝る表現」、「一聞瞭然」の説明を是非ともお願いします。

弱視の子どもたちは、音楽や粘土などでは優れた聴覚、触覚を生かしすばらしい作品を作ることがしばしばあります。晴眼児と同様に秘めたる可能性は無限にあるのです。得意分野を見つけだし、それをどんどん伸ばし、自信に結びつけてあげてください。大きな一歩につながると思います。

どうか、この「こんなふうに見えています」生徒編から弱視児の眼の見え方をご理解、ご想像していただき、毎日の指導に活かして下さるようお願いいたします。

更に詳しい情報を必要とされる方は、下記までお問い合わせください。

京都府視覚支援センター

TEL : 075-492-6733 FAX : 075-492-6920

添付資料 1

(1) 教科書体(教科書で使用されている字体)で、

ア 7ポイント以上可能

イ 10ポイント以上可能

ウ 14ポイント以上可能

エ 16ポイント以上可能

オ 22ポイント以上可能

カ 30ポイント以上可能

キ 50ポイント

以上可能

ク この見本の字ではどれも読めません。

上の例で、ループを使うと、

アイウエオカキ まで読めます。

(2) 明朝体(新聞雑誌など多くの書籍、文書で使用されている字体、縦線に比べて横線がやや細い)で、

ア 7ポイント以上可能

イ 10ポイント以上可能

ウ 14ポイント以上可能

エ 16ポイント以上可能

オ 22ポイント以上可能

カ 30ポイント以上可能

キ 50ポイント

以上可能

ク この見本の字ではどれも読めません。

上の例で、ループを使うと、

アイウエオカキ まで読めます。

(3) ゴシック体(線の太さが均一の字体、弱視者に読みやすいとされている)で、

ア 7ポイント以上可能

イ 10ポイント以上可能

ウ 14ポイント以上可能

エ 16ポイント以上可能

オ 22ポイント以上可能

カ 30ポイント以上可能

キ 50ポイント

以上可能

ク この見本の字ではどれも読めません。

上の例で、ループを使うと、

ア イ ウ エ オ カ キ まで読めます。



あとがき

弱視者は眼からの情報が不十分なため、手、足の触覚や耳の聴覚、経験、知識などで補って行動しています。最初に時間をかけて正しくイメージできれば、たいいていのはできるようになりますが、初めてのところや、まわりの状況が急に変わったときなどは、普段と同じように行動できなくなることがあります。(ゴミ箱の場所が少し変わっただけでもぶつかってしまうものです。)

また、大好きなもの、興味のあることなどで慣れ親しんでいることは、はっきり見えているかのように行動できる場合が多いものです。でも、「日常生活上での見る力」と「学習上での見る力」は違うのです。見たいときだけ見えるような眼はありません。実ははっきりとは見えていないのです。

信頼関係ができるまでは、「見えているふり」と「見えていないふり」をついついしてしまうもので、初めて出会った人たちに、この冊子に書いてあることを全て説明していくストレスの大きさは並大抵ではありません。このあたりの弱視生徒の苦労を理解してあげてください。

家族での旅行、化学の実験、校外学習などでは、周囲の景色や状況、変化の様子などを弱視生徒にイメージがわくように言葉で説明をしてあげないと「経験が経験になっていない」という状態がおきてしまいます。

「言葉」は知っていても「そのもの」を知らないということが多い弱視です。「視経験を増やす」ことにご配慮をお願いしたいと思います。

弱視のあなたへ

この冊子を参考にして、自分がどのように見えていて、どのような時に困り、どのような配慮が役に立つのか、これらのことについて、最小限(できるだけコンパクトに)どれだけのことを周囲の人に伝えればよいのかを考えてみてください。

自分の眼のことを話すのには、心の準備がいるかも知れませんね。でも、「この人には知っておいてほしい」と思う時がきつと来ると思いますよ。今すぐ周囲の人に話すかどうかはあなたの気持ちにおまかせしますが、話そうと思ったときに上手くできるように準備しておきましょうね。

ご担当の先生方へ

様々な生徒が多数在籍する通常の学校では、非常にお忙しい毎日の中、弱視生徒になかなか十分な時間がかけられない現状があると思いますが、時間を要しないちょっとした配慮が、はっきりと見えていない者にとってはうれしくて、元気になることが多いように思います。「先生が私のために、工夫をしてくださっている」と感じる事が、弱視生徒からすると本当にうれしいことです。

先生方が時間をかけて作成してくださった見やすい教材教具が、弱視生徒の前に置かれた段階で、はじめて晴眼生徒と同じスタートラインに立てるのです。

この冊子を基に生徒の学校生活を見てあげてください。

視覚に障害のある生徒たちが、楽しく豊かな学校生活を送れるようできる限りのサポートをよろしく願いいたします。

平成15年4月20日作成

藤井 則之(弱視)

令和2年3月改訂

京都府立盲学校 自立活動推進部

京都府視覚支援センター

